

令和6年度 輪之内町立大藪小学校 自己評価書

学校の教育目標	よく考え 励まし合って やりぬく子 ○よく考える子 ○励まし合う子 ○やりぬく子			
経営の重点	【学習づくり】 【生活づくり】 【健康づくり】	・学びのスタンダード ・自他のよさを認め合う ・自分自身で健康づくり	・対話により学び合う授業 ・三本柱（挨拶・時間・掃除） ・命を守る判断と行動力の育成	・ICTを活用した教育活動 ・教育相談 ・家庭と連携した生活習慣づくり

評価基準 A(3ポイント)：実践し、効果をあげることができた。  
 B(2ポイント)：実践し、一応の効果をあげることができた。  
 C(1ポイント)：実践し、僅かだが効果をあげることができた。  
 D(0ポイント)：実践したが、効果をあげることができなかった。

町の重点	評価の窓	評価	12月までの成果	後期後半及び来年度以降の課題と改善策
【道徳教育】 自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。	生き方（命の大切さ）についての考えを深める道徳教育の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りを書いて考えを交流したり、クラス全員発表したりするなど仲間の考えを聞き合うことを積み重ねることができた。また、自分の生活を振り返り、命を大切にすることを学んでいる。</li> <li>・道徳の授業や人権週間を通して、人を思いやる心や生活で大切なことを学んでいる。</li> <li>・人権教育で「命の大切さ」が理解できた。ひびきあい集会を通して、各学級の発表を聴くことによって、さらに深く学ぶことができた。</li> <li>・道徳の授業やSOSの出し方教育などを通して、命の大切さに気づくことができた。</li> <li>・人権DVDなどの教材を通して、生き方についての考えを深める道徳教育を行うことができた。</li> <li>・タブレットを活用した授業展開を校内で研修することができ、個の考えを表出しやすかったり考えの変容がよく分かったりするなど、授業の工夫が進んだ。全学年、学級で同じように指導を進めて、大藪小の道徳授業として定着していけるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の授業を中心としつつ、全校集会など機会をとらえ、学校生活全体において生き方について考えられるようにする。</li> <li>・自分の考えや思いを表出し、考え、議論する道徳ができるように、タブレットを活用するなどの工夫をしていけるように今後もしていく。</li> </ul>
【人権教育】 自他の違いを認め、互いに人権を尊重する望ましい人間関係を醸成する。	児童生徒と全教職員が一体となったいじめや差別を許さない学校・学級づくり	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交友関係の相談があった時に話をじっくり聞いてどうするとよいかを考え、よくないことに対して指導した。</li> <li>・人権集会やひびきあい集会を通して児童が人権について考えられる場が設けられている。</li> <li>・アンケートや人権週間など、年間を通していじめを許さないということを再認識させるようにできている。</li> <li>・常に職員同士で生徒指導交流をし、情報を共有している。</li> <li>・ひびきあい活動を通して、自他の違いを尊重できる学びをした。</li> <li>・人権DVD視聴では、障がいの多様を学んだ。事後の感想から、人権意識が高まった。</li> <li>・生徒指導に関わる問題があると、担任だけでなく、管理職・生徒指導・学年部などいろいろな職員が関わり対応できている。</li> <li>・SOSの出し方教育の計画的実施、保護者、児童に対するSCのカウンセリングが進められた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を共有することや些細なことでも、相談に迷ったら必ず対応するようにしていく。</li> <li>・アンケートや人権意識を高める行事などを上手く活用するなどして、常にいじめを許さないということを児童に再認識させていけるようにしていく。</li> <li>・児童がいる場を分担して、どの場所でもトラブルが起きないように、児童を見守り、指導していきたい。</li> </ul>
【生徒指導】 共感的な児童生徒理解に徹し、よりよい人間関係の形成を図り、自己指導能力を育てる。	いじめ・不登校・自殺等の未然防止と早期発見・対応の強化 SOSの出し方教育の推進と相談体制の強化	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の生活アンケートを活用し、困っていることの把握に努め、児童にいろいろな方法でSOSを出せることを伝えた。</li> <li>・心のアンケート実施期間に関わらず、日常的に児童に声をかけ、係として困っていることや、生活面で困っていることではないかを聞いた。担任に相談しやすい雰囲気づくりや声のかけ方を、意識することができた。</li> <li>・毎週の終礼（生徒指導交流）で児童の情報を知らることができ、それに合わせた声かけや見届けができています。</li> <li>・放課後登校の児童と地道にコミュニケーションをとり、成長を感じられている。</li> <li>・保健室に訪れる児童と話をして、変化や成長をキャッチし、必要に応じて情報共有ができています。</li> <li>・児童がいつでも、どの先生にも相談できる環境が出来ていると思う。</li> <li>・生徒指導事案があった時、すぐに相談したり報告したりできる環境がある。担任が抱え込まない、組織的に対応する環境がある。</li> <li>・終礼に生徒指導交流があることで、児童の様子を全体で知ることができ、職員全体で声かけや見届けができた。</li> <li>・SCも含め誰にでも相談できる体制がある。また、学年や学校全体で共通認識を図ることができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任だけでなく、どの教職員にも相談できる雰囲気をつくる。また必ずしも教職員に相談しなければいけないわけではなく、多様な方法があることを伝えていく。受け皿として、相談しやすい環境をつくっていくことが大切である。</li> <li>・児童の変化を見逃さない。</li> <li>・支援員にも情報共有を行い、協力してもらう。</li> </ul>
【総合的な学習の時間】 探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質・能力を育てる。	「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し誇りに思つて心を開く探究活動の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デイサービスセンターとの交流を復活させ、福祉についての体験活動ができた。また、前年度同様、車椅子バスケの授業では協議を体験したり、講師の方の生き方を直接聞いたりすることができ、福祉を学ぶよい機会になった。</li> <li>・社会の授業と連携させて輪之内町の水の歴史について探究することができた。</li> <li>・総合学習の時間や校外学習の時間を通して、児童は生まれ育った輪之内町について考えられた。</li> <li>・自分たちの生活している地域の特徴などを学ぶことができた。</li> <li>・各学年で地域人材の活用、地域の産業の見学などが年間を通して位置付いていて、ふるさと学習が進んでいる。地域の方も協力的なので毎年大切にしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師を呼んだり、出前授業をもっと増やしたりして、学びの機会や体験活動など更に充実させていく。</li> <li>・コロナ禍で中止になった活動について復活を考えたり、総合的な学習に関わる各学年の応募等に積極的に参加したりしていく。</li> <li>・引き継ぎ資料をもとに各学年で、計画的に実施することができている。</li> </ul>
【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する。	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対話する際に、自分の考えとの共通点や相違点を相手に伝えるなど、教科やねらいに合わせて考えを深めていく観点を与えるなどの授業改善を行った。</li> <li>・どの教科でもペア交流や班交流を取り入れることによって、多様な考えに触れたり、自己表現の機会をつくらせることに努めた。</li> <li>・児童が主体的に学ぶための指導法について研究授業等が研修の場となった。</li> <li>・全研や部研から様々な指導法のよさを学び合うことができた。</li> <li>・どの教科にもICTの活用したり、対話を意識したりして授業を進めることができた。</li> <li>・発問を工夫し、挙手発言できない児童も答えやすいようにできた。</li> <li>・管理職などの指導を受けて、工夫をし、児童が静かに集中して取り組めることも少しずつ増えてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大藪小学校学業指導年間指導計画について、対話につながる「身につけたい反応」を中心にした改善を図る。</li> <li>・相手に質問をしたり、目を見て反応したりするような交流に発展させていきたい。</li> </ul>
【ICT教育】 児童生徒の情報モラルを高め、情報社会に対応できる情報活用能力を育てる。	ICTを有効活用した学習活動の充実（「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実）	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドリルパークを活用し、学習の習熟を図った。また、共同編集を行えるようにタブレットを活用し、協働的な学びを国語科を中心に行った。</li> <li>・ICT端末を使って調べ学習を行ったり、デジタル教科書の映像資料の動きを止めながら指し示して仲間と交流したりすることができた。</li> <li>・児童がICT活用のよさについて、理解している。それに教師も応じている。学年に応じて、タブレットの有効活用ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階に合ったICT活用をさせていく。</li> <li>・アプリの特性や使用方法について研修を積み重ね、個別最適な学びの場を増やしていきたい。</li> <li>・有効活用するためには、授業の計画が大切だと思った。</li> <li>・学年に応じたICT活用ができるように、活用方法をさらに学んでいきたい。</li> </ul>
【外国語教育】 外国語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力を高める。	主体的にコミュニケーションを図る姿が具現される指導方法等の工夫	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週に一回の外国語活動の時間ではあるが少ない時間の中でとても楽しそうに活動を行っている。</li> <li>・自分から英語を話そうとする子が増えてきた。発達段階に応じた学びができた。</li> <li>・英語検定に挑戦する子が増えてきた。</li> <li>・英語で自分からALTIに話しかけて、シールをもらっている子が、五、六年生に増えてきた。</li> <li>・語彙力がついてきたので、自分の思っていることを話すことができるようになってきた。</li> <li>・言いたいことがわからないときは、googleで調べて話そうとするようになった。6年の修学旅行の練習の時は言いたいことをgoogleで調べて話そうとしていた。</li> <li>・教科担任、ALTIにより、興味関心を高めるような授業展開が工夫されている。児童も楽しく取り組んでいる。</li> <li>・外国語の楽しさに触れ、聞くこと、話すことも大切にして進められている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTの生きた英語を更に活用して、児童のコミュニケーション力を高める。</li> <li>・発話や交流の場と方法を明らかにして、主体的なコミュニケーションの学習量を増やす。</li> <li>・ALTとの打ち合わせの場を確保して役割を明らかにするとともに演習の場も大切にしていく。</li> </ul>

町の重点	評価の窓	評価	12月までの成果	後期後半及び来年度以降の課題と改善策
【キャリア教育】 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てる。	勤労観・職業観を育成する体験活動の位置付け 事前・事後指導の充実（キャリアパスポートの活用）	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級内での係活動や、宿泊研修での一人一役を通して、自分の役割をやりぬくことを価値付けることができた。</li> <li>ふれあい活動で、消防車を見せて、放水体験できたことはキャリア教育になった。</li> <li>出前授業や校外学習、社会見学などもキャリア教育の場として意識することができた。</li> <li>毎日の掃除時間には子ども達と一緒に取り組むことで、子どもの様子をつかむことができた。その中で、いい姿を積極的にほめて認めることができた。</li> <li>交流学級での活動を通して、集団での役割分担や個々のよさをとらえさせ、社会性を育成した。</li> <li>行事や学級の係活動などを通して、自分の良さ、改善点に気付いて、工夫していこうと考えさせることができた。</li> <li>普段の学校生活からも勤労観・職業観について触れ、考えられるようにしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>節目ごとにキャリアパスポートの用紙に振り返りや自分の思いを記入することができるようにしていく。</li> <li>時期が来たら担当者から伝え、学校全体で共通行動ができるようにしていく。</li> <li>毎年の最低6枚の積み重ねを確実にできるよう、各担任にキャリアパスポートの授業例を提示していく。</li> <li>直接的に職業を学ぶ学習を行うようにしていく。</li> <li>キャリアパスポートがうまく活用していく。</li> </ul>
【特別活動】 所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	望ましい人間関係や学級集団としてのまとまりを育てる学級経営の充実（QU検査の活用）	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>QU検査の結果を受けて、子ども一人一人に声かけをしたり、気持ちを汲んで対応したりすることができた。</li> <li>運動会や宿泊研修、社会見学など、さまざまな行事活動を通して、学級集団としてどんな仲間とも協力できる人の素晴らしさを共有し、学級全体の意識を高めることに努めた。</li> <li>年2回のQU検査があったので、学級経営に生かすことができた。</li> <li>QU検査結果から、一人一人の今現在の実態が把握でき、また、QU検査の活用の仕方を夏休みの研修で学び、指導・援助をすることができた。</li> <li>長期休みにはQUの研修があり、その後の学級経営に生かすことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科担任を含めて、数十分ほどQUをもとにした研修を実施し、今後の指導方針や方法を共有していく。</li> <li>公開授業や生徒指導事案について、研修の場としていく。</li> </ul>
【健康安全教育】 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる。	体力向上のための取組 自ら命を守りきる防災意識を向上させるための指導方法や指導体制の工夫改善	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>縄跳びやマラソンを通して体力の向上を図った。</li> <li>命を守る訓練を計画的に実施している。児童の防災意識は高まっている。</li> <li>校庭での遊び方も危険が多い。校舎前の斜面やピオトープなど。</li> <li>いろいろな想定での避難訓練を計画していただいているので、どのように避難するのか、自分がどのように動けばいいのかを、子ども達と一緒に教員も考えることができた。</li> <li>水泳指導、マラソン指導など安全面がよく配慮されていた。</li> <li>運動は、進んで外に出る子が増えた。</li> <li>命を守る訓練において、さまざまな災害の場面を想定して、実践することができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>廊下の安全な歩行について、担当の教職員を中心としながらも、全職員で指導の在り方について考えていく。そして、児童会活動や道徳教育なども関わらせた指導を実践していく。</li> <li>校内の命を守る訓練について、学校だよりやホームページを利用して、保護者や地域への啓発に努め、じどうの意識と行動力を高める。</li> <li>輪之内町内では、地区ごとで年に1回訓練がある。</li> <li>「家庭でも話題にさせていただく。」</li> <li>学校では学校内での訓練について、継続的に実施。</li> <li>命を守る訓練では、事前事後の指導を丁寧に行うことを今後意識していく。</li> </ul>
【コミュニティ・スクール】 地域と一体となった特色ある学校づくりを進める。	学校運営協議会の活動、地域学校協働活動を推進し、地域とともに進める学校づくり	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>土曜授業のふれあい活動で、地域の方から直接輪之内の米作りについて学ぶ機会があり、地域のつながりを実感することができた。</li> <li>地域の方の畑や施設を見学することで地域の方との交流をすることができた。</li> <li>校区ふれあい活動では、地域の方と各学年活動することができ、なかなか触れ合ったり学ぶことができないことができた。</li> <li>今後も、協力して取り組んでいきたい。</li> <li>地域の方の協力があり、実践できている取組もたくさんある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあい運動会、ふれあい活動において、地域の方との交流、ふるさと学習の色合いを大切にしながら調整を無理のない、継続性のある活動を目指す。</li> <li>そして、地域に発信できる活動についても取組を進める。</li> </ul>
【学校経営】 全教職員が協力しチーム学校として活力ある学校経営をする。	勤務の適正化と教職員が健康でやりがいをもてる経営	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>不安や、困っていることをすぐに相談・ご指導いただきやすい環境で、心身共に健康に過ごすことができた。中でも、主任に学年の仕事内容や、学校の行事の概要、学級経営について等を多く学ばせていただき、多くの学びにつながった。</li> <li>校長だよりの配付やT-compasの活用により、大切な内容を見返すことができたり終礼の短縮（業務の効率化）につながっている。</li> <li>困ったときに、すぐに相談できる環境がある。</li> <li>組織的なチーム力を感じる。</li> <li>生徒指導交流は必要だが、終礼での連絡事項はtコンパスのお知らせをさらに活用して、短時間で終わるようにしたい。</li> <li>相談しながら取り組める環境がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①時間外勤務月45時間以内を意識した働き方の推進、②元気に、笑顔で、心身ともに健康で勤務ができるための業務内容の見直しに取り組んでいく。</li> <li>職員一人一人が自身の働き方改革に取り組み、不祥事・ハラスメント根絶に向けた取組、研修が自分事となるよう、学校全体の取組として推進していく。</li> <li>トラブルを一人で抱え込まないように、教職員の情報交換、共有を大切に、指導についても多くの教職員が関わる態勢づくりに努める。</li> </ul>
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	研修主事を中心とした組織的・計画的な研修の実施	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの有効活用について授業改善につながる研修を汲み研修を行うことができた。また、4月から対話に関わる提案をし、日々の授業について子どもの姿でICTの有効活用と対話する授業公開を行った。各教科で先生方にICTの有効活用に取り組んだ。</li> <li>声かけの仕方や、学習教材の工夫、生徒指導関連など、深い学びにつながった。</li> <li>保健関係の職員研修を年2回実施することができた。来年度も、継続し、さらに充実させる。</li> <li>全研や部研を通して、タブレットの有効的な使い方を学ぶことができた。</li> <li>対話を身に付けるための活動を全学年に位置づけた。</li> <li>ICT活用を取り入れた研修を進めることができた。</li> <li>夏休みの時間を使って、研修で学んだ内容を職員に研修を開いてくださり、授業作りにかかすことができた。</li> <li>全校研、部研など授業提供し、いろいろな意見を聞くことで自分の授業を見つめ、改善することができた。</li> <li>自己を見つめ直すきっかけとなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>この1年、ICTを効果的に活用する授業公開を各教科で行う中で、新しい学びがあった。来年度も引き続きこの体制で研究を進めていくべきかどうかについて研究推進委員会で協議して決めていく。</li> <li>研修主事に教職員の研修に関わるニーズが集まるような態勢づくりに努める。また、時と場に応じた指導ができるように研修の時期や内容についても検討を進める。</li> </ul>
【特別支援教育】 一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる。	特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制づくりと合理的配慮の構築	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな児童への個別最適な支援の方法について学ばせていただいた。担任と情報を共有することで、あらゆる視点からの児童理解に努めることができた。</li> <li>必要な情報は教員同士で共有することで、校内で支援できる体制が出来ている。</li> <li>特別支援教育コーディネーター・通級指導教室と学級をつないでいただけた。</li> <li>通級教室に通う児童とクラスの仲間との関わりを配慮しながら日々教えつなく指導を続けた。また、保護者との連携も大切に取り組めた。</li> <li>特別支援教育コーディネーターに相談をしながら、児童一人一人に必要な力をつけることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科担任が増えていく中、児童理解を深め、個別の支援計画、指導計画等伝え合う場を確保する。</li> <li>特別支援コーディネーターと担任とのコミュニケーションを随時とれるようにしていく。</li> <li>合理的配慮について保護者とよりよい話し合いができるように、特別支援コーディネーターを中心とした研修の充実を図る。</li> </ul>
【学校関係者評価】 ○児童の学習や生活状況を調査し、評価と分析がきめ細くなされている。また、学校運営協議会において具体的な事例や対策が報告・協議されている。今後、自主性の育成や、コミュニケーション能力の向上、いじめの未然防止などを中心に取り組んでいく必要がある。 ○学習や生活環境が整い、すっきりしていること、また、児童の掲示物は保護者の安心感にもつながっている。子どもの多様性を捉えながらユニバーサルデザインを意識した環境作りに努め、教職員自ら言語感覚及び人権感覚を磨き合う雰囲気を作っていく必要がある。 ○校区ふれあい活動など、地域とつながる活動が地域や保護者に好評であった。今後も地域の意見や声に耳を傾けながら、また、年間授業時数の縮減などの課題にも向き合い、教育活動の精選と充実を図る必要がある。				